

[果樹部門]

2. 9月上旬に成熟する極晩生のモモ新品種「岡山モモ 14号」の育成

[要約]

果皮着色しにくく、大果で糖度が高く、果肉が軟らかくて食味が優れ、9月上旬に成熟するモモの新品種「岡山モモ 14号」を育成した。

[担当] 岡山県農林水産総合センター農業研究所 果樹研究室

[連絡先] 電話 086-955-0276

[分類] 技術

[背景・ねらい]

「岡山白桃」のシリーズ化にはオリジナルの極晩生で白いモモの品種が必要であることから、8月下旬から9月上旬に成熟し、栽培が容易で、果皮着色しにくく、糖度が高くて、食味の優れたモモ新品種を育成する。

[成果の内容・特徴]

1. 岡山県農業総合センター農業試験場（現 岡山県農林水産総合センター農業研究所）で、2005年に「清水白桃」の自然交配で得られた交雑実生個体について、2011年から「岡山モモ 14号」として選抜を継続し、育成した品種である。
2. 開花期は「初秋白桃」とほぼ同じで、花粉を有する。果実の収穫期は9月上旬で、「初秋白桃」より7日程度早い。核は粘核で、核割れは少なく、生理的落果も少ない(表1)。
3. 果実重は 330 g 程度で大きく、果皮の着色はほとんど無く成熟期でも果皮の青みが残りやすい。果肉は乳白色で溶質、果実硬度は軟らかい。糖度は高く、酸味は少なく、食味は優れている(表2、図1)。

[成果の活用面・留意点]

1. 岡山県内のモモ栽培地域で栽培可能で、当面県外へは苗木を供給しない。
2. 果皮着色は少なく、オレンジ袋等では果実に青みが残り成熟期が判りづらいので、遮光率の高い白黒袋などをかけ、果実の青みがやや薄れてきたら収穫を行う。
3. 本品種は「岡山PEH8号」として品種登録(2016年3月22日)され、「白露」として商標登録(2017年9月15日)された。系統名は「岡山モモ14号」である。「追記2018年9月」

[具体的データ]

表1 「岡山モモ14号」の生育特性^z

品系	系統	種名	開花盛期 (月.日)	収穫盛期 (月.日)	花粉 有無	核の 粘離	核割れ 多少	生理的 落果
岡山モモ	14号	14号	4.10	9.3	有	粘	無	微
新白麗		麗	4.9	8.25	有	粘	無	微
初秋白桃		桃	4.11	9.10	有	粘	無	少

^z育成地における2012～2013年の平均値

表2 「岡山モモ14号」の果実特性^z

品系	系統	種名	果実重 (g)	糖度 (° Brix)	酸度 (pH)	果実 硬度	果皮 着色	食味 評価 ^y
岡山モモ	14号	14号	326	15.2	4.4	軟	無	中中
新白麗		麗	263	15.2	4.6	中	少	下上
初秋白桃		桃	285	15.6	3.7	硬	微	中下

^z育成地における2012～2013年の平均値

^y食味評価は官能試験における下下～上上の9段階評価



左：新白麗 中：岡山モモ14号 右：初秋白桃

図1 「岡山モモ14号」の果実比較

[その他]

研究課題名：モモ新品種の育成

予算区分：県単

研究期間：2005～2013年度

研究担当者：日原誠介、田村隆行

関連情報等：日原ら(2014)、品種登録出願 第28904号